

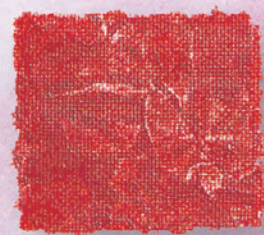
道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.42 春号



巻頭インタビュー

熊本地震からの復興と阿蘇の良さを発信

佐藤 義興（阿蘇市長）

熊本地震から6年、力強く復興する阿蘇地域

みちづくし in 北九州 2021 実施報告

「みんなで手をつなごう」連帯の道守活動で前へ

道守たちのトピックス

道守団体、次々と大臣表彰を受賞！

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



阿蘇のミヤマキリシマ（熊本県阿蘇市）

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
熊本地震からの復興と阿蘇の良さを発信
佐藤 義興（阿蘇市長）
- 03 熊本地震から6年、力強く復興する阿蘇地域
- 04 みちづくし in 北九州 2021 実施報告
「みんなで手をつなごう」連帯の道守活動で前へ
- 07 九州道路メンテナンスセンターを設置しました
- 08 わたしの好きな道
潮風薫る道、未来へ夢膨らむ
福山 朗子
- 09 私たちの道守活動
- 12 風景街道
- 16 道守たちのトピックス
道守団体、次々と大臣表彰を受賞！
- 17 道守人物伝・横顔・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー

YOSHIOKI SATO

佐藤義興

阿蘇市長

熊本地震からの復興と 阿蘇の良さを発信



——熊本地震で、阿蘇地方は大きな被害を受けられました。

佐藤市長 阿蘇市では、熊本地震の28年だけではないんです。実はその4年前にも九州北部豪雨災害で大変な被害に遭いました。

命の道である国道そのものが、通行が出来なくなると同時に生活道もそうでしたし、道をいかに早く復旧して、市民の皆さん方が通常の暮らしに戻るよう、色んな

な機関にお願いをして、早々に仮ルートを造ってもらったり、あるいは主な道路を改修していただきました。

その象徴的なものが今回、道の駅「阿蘇」を中心として、もう一つ、波野地区の道の駅「波野」が有りますが、それを繋ぐ滝室坂への道が11カ所被災し、封鎖されて回り道で行かなければならなくなりました。そこを国土交通省さん

に復旧して頂いて、またトンネル工事をして頂き、中九州高規格道路とも結ばれるということで、将来においても地域の発展にもつながります。経済的にも経済交流の発展に活かされると思っています。平成28年の大きな地震で大動脈である国道57号が封鎖されて、若い青年が土砂崩れに巻き込まれ、大切な命を落とされたことは大変残念でした。

——阿蘇大橋、国道57号の復旧の喜び、また二重峠や滝室坂のトンネル整備への期待はいかがですか。

佐藤市長 震災後の令和2年10月に開通した国道57号現道及び北側復旧道路、また令和3年3月に開通した新阿蘇大橋については、阿蘇市のみならず、阿蘇地域へのアクセスを復活・充実させました。国道57号は車線が増え、それと同時に災害時に迂回路がなかったこととの反省を踏まえ「北側復旧道路」を短期間で整備して頂いたおかげで安心して生活が出来るし、移動時間が随分と短縮されて、渋滞も無くなりました。将来は、高規格道路と結びつけていくということでも有りますし、その道路の大切さというのは普段通っておっても何ら感じなくて、当たり前のよう

に思うけれど違うんです。思いがそれぞれ込められた道であるということ、道路の大切さとこれから更に交流人口の維持・増加、また地方においてその交流によって地域の良さを発信できる大事な道であると思っています。

また、中九州横断道路に位置づけられた滝室坂道路については、完成すれば人、モノ、情報の流れがこれまで以上に活発になり、産業、観光、文化の振興、経済の発展、また「命の道」としての機能など、様々な効果が期待される。本市としても国や関係機関と連携しながら今後もしっかり取り組んでいきたい。

——新阿蘇大橋、道路網を観光面、暮らしの面からどう生かそうとお考えですか。

佐藤市長 これらの道路や新阿蘇大橋が開通したことによって、阿蘇の素晴らしい草原や景観、そして活火山でありながら、中岳火口が直下に眺められるという地域の資源をより多くの方に見て



左から下城氏、阿蘇市長、阿南氏

いただきたい。新しい見学ルートや第二次避難所も整備して、観光地としてアピールしていこうと張り切っていました。が、噴火やコロナ禍の影響を大きく受けている状況です。

——今回のみちづくしでは、道守・風景街道・道の駅活動の三位一体「三つの輪」の連携で観光など地域振興の道を探ります。

市長さんからの提案をお願いします。

熊本地震から6年、力強く復興する阿蘇地域
～再生の歩みを体験してみませんか～ 現地体験学習の案内

平成28年4月、観測史上初めて2度の震度7を記録した熊本地震から6年。

急ピッチで復旧事業が進められ、令和2年には数鹿流大崩れの斜面対策が完了し、国道57号が開通、豊肥線の全面再開。令和3年には、復興道路の北側ルートや新阿蘇大橋が開通しました。

熊本市や阿蘇周辺住民の暮らしは何とか取り戻すことができましたが、復興の歩みはまだまだ途上にあり、これからが地域復興の正念場となります。

南阿蘇村では「熊本地震震災ミュージアム」の一角として震災遺構の保存・整備を行っており、現地案内の語り部達は「防災は、自分のためだけじゃない。自分が生き延びることで大切な誰かを悲しませないように、そして生き残って大切な誰かを救うために必要なんです」と伝えていこうとしています。

今年のみちづくしは、阿蘇市で開催します。たくさんの道守さん達が一堂に会し、現地見学で阿蘇の復興と地域振興へのエネルギーを体感し、今後の自分たちの地域で活動の参考にさせていただきたいと願っています。

翌日の現地体験学習は、新阿蘇大橋や数鹿流大崩れの復旧や復興道路の北側ルート、工事中の滝室トンネルなど見学します。是非とも参加して復興の歩みを体験し、自分たちの地域での活動の参考にしてください。



阿蘇大橋落橋—被災のシンボル



数鹿流大崩—国道57号と鉄道を埋めた



東海大学キャンパスの震災遺構（左：断層跡 右：壊れた教室の窓）



新阿蘇大橋—新しい動脈へ



二重トンネルを抜けて阿蘇の道が拓かれた



着々と工事が進む滝室坂トンネル

ます。

佐藤市長 コロナの影響下では、ウィズコロナ、アフターコロナということで、しっかりその辺の取り組みをみんなが共有して、発展的に取り組んで行く、そういう大会に今回はなればいいなと、思っています。

道の駅「阿蘇」は、年間100万人を超える皆様に利用いただいており、情報発信だけでなく、地域資源を活用した都市と農村を結ぶ交流拠点でもあります。道守活動や風景街道の取り組みと連携して、地域の人々と行政が力を合わせて、風景、自然、歴史、文化など、地域の魅力を「みち」でつなぎながら「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による美しい景観づくりや魅力ある地域づくりを進めていく必要があると考えています。

特に九州を横断する「やまなみハイウェイ」、あれだけの景観はおそらく日本全国を探してもどこにも無いと思っておりまして、火山の爆発と人々の野焼きによって出来た素晴らしい共生する観光地と景観であると思っています。

——野焼きなどで阿蘇高原の景観が維持されています。ボランティアの人々が県外からも集まっています。

野焼きが抱えている課題や皆さんに訴えたいことがあればお聞かせ下さい。

佐藤市長 広域観光です。九州中の色んな所から集まってもらうこ

とが必要ですので、道しかないですよ。

野焼きは最近では、担い手が減少している中、地元の人員では足りない分は、野焼きボランティアの協力をいただいています。野焼きは阿蘇の草原を守るために大切な行為であり、必要不可欠だと考えているので、行政としては、必要な支援をしながら少しでも野焼きの伝統が長く続くよう取り組んでいきたい。

大分から中九州道が竹田まで来て、それから波野の方でトンネル工事がされていますが、大分と熊本の一部がつながっていない。阿蘇が人を集めるには、どうすればいいと考えられていますか。

佐藤市長 3年前に竹田・阿蘇間の道路は事業化をして頂いて、地元説明会、そして用地買収など、一歩前進しているところで。大分から熊本側に整備が進む高規格道路について一段と前に進んでいます。

この阿蘇地域が、大分からでも熊本からでも便利に来れるようになると思っています。そのルートと計画案が出来る前に、我々はその道路の活用をしっかりと考え、観光地として、訪れる人が魅力を感じ、また居住していただけるような地域にしていかなきゃいかんと考えており、それが大きな課題だと思います。

みちづくしには、400〜500人の皆さんが参集します。大会ではどのような議論を期待され

ていますか。

佐藤市長 道の大切さでしょう。か。人々の交流とかあるいは文化の発展もそうですし、生活を支え、命を大切にする意味においても一番大事なことはやっぱり道だと思っております。ウィズコロナのもと、それぞれの地域がどう発展をしていくか、また、サステイナブルを踏まえ魅力的な観光地であり続けるために求められていること、また、人口が減少していく中においても、道路を通じて地域が持続していくための都市と地方の関わり方などについての議論を期待しています。

是非ともその辺りのことを含め、議論していただきたいですね。

今回の大会において九州の中心地であるこの阿蘇の地から色んな思いや大切な道について発信出来て、そこにまたそれぞれが共鳴をしながらかきちんと道の大切さ等を認識して盛大に繋げていくという大会になればと思っています。

■プロフィール

さとう・よしおき 昭和24年8月6日生まれ、72歳。阿蘇市出身。阿蘇高校、近畿大学卒業後、国会議員秘書、建設大臣秘書官、経済企画庁長官秘書官などを歴任し、平成17年3月に阿蘇市長に初当選。現在5期目。

インタビュアー

道守くまもと会議世話人 阿南誠志氏

道の駅「阿蘇」駅長 下城卓也氏

みちづくし in 阿蘇 2022
阿蘇からのチャレンジ 復興九州 ～パワフルな風を届けよう～

開催日：令和4年10月28日(金)、29日(土) 【1日目】交流会・交流集会
会 場：阿蘇プラザホテル（熊本県阿蘇市内牧温泉1287） 【2日目】現地体験学習



テーマは「阿蘇からのチャレンジ 復興九州 ～パワフルな風を届けよう～」です。熊本地震や北部九州豪雨などの大災害からの復興、その後の地域振興に「道守」「風景街道」「道の駅」が果たす役割について議論し、また、コロナ禍で情報交換や連携が出来なかったことを踏まえ、「Withコロナ、アフターコロナ」とどう向き合っていくかについて意見交換できる機会にしたいと考えています。

今回は一堂に会し、交流集会も賑やかに開催し、楽しい一時を過ごしたいと考えていますので、多数ご参加されますよう心待ちにしています。

みちづくし in 北九州 2021 実施報告

「みんなで手をつなごう」 連帯の道守活動で前へ



メイン会場—234人の道守さんが結集



オンラインで活発な報告と意見交換

令和3年11月30日から12月1日の2日間にわたり福岡県北九州市で開催された「みちづくし in 北九州 2021」は、九州各県から234名の道守さんや関係者が北九州市に集結しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場内のソーシャルディスタンスの確保のほか、コロナ禍におけるみちづくし初の試みとして、1日目の交流会をオンラインで開催し、九州各県にサ

テライト会場（会場数14会場、参加者…132名）を設け、メイン会場と結び、意見交換を行いました。また、交流会の状況をYouTube（最大同時視聴者数…58名）で広く配信しました。

今回のみちづくしのテーマは、
一人ではなくみんなで道守活動を

「道守活動は一人ではなく、みんなで。」という道守活動団体の連携に加え、行政と民間・一般の方との連携を深めていこうという思いから、行政との協働体制である道路サポーター制度が定着し、関門海峡を挟んで本州とつながる道をもっている北九州市で開催しました。

主催者挨拶・来賓挨拶

道守九州会議副代表世話人で実行委員長の玉川孝道からの主催者挨拶から始まり、来賓の生嶋亮介福岡県副知事、北橋健治北九州市市長、藤巻九州地方整備局長より挨拶をいただきました。



九州地整 藤巻局長

玉川実行委員長

北九州市 北橋市長

福岡県 生嶋副知事

功労者表彰・感謝状贈呈

8名の道守さんと2団体を表彰

長年にわたり道守活動を九州各地で続けられてきた8名・団体の道守さんが功労者として表彰され、また、道守活動に貢献・支援が認められる2団体に感謝状と記念品が道守九州会議榑木武代表世話人より手渡されました。

- 功労者表彰 受賞者
 - ・道守ふくおか会議 道守おむたネットワーク
 - ・道守ふくおか会議 白石廣海氏
 - ・道守佐賀会議 嘉瀬まちづくり協議会環境部会
 - ・道守長崎会議 荒木光義氏
 - ・道守くまもと会議 下町惣門会
 - ・道守大分会議 後藤節子氏
 - ・道守みやざき会議 旭建設株式会社
 - ・道守かごしま会議 原口學氏
- 感謝状 受賞者
 - ・（財）ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団
 - ・北九州市道路サポーターの会



記念品の孫次風

榑木代表世話人より表彰



表彰された皆さんの記念撮影



オンライン配信の新しい試み



熱心に聴講する参加者



熱く語る北九州市の東建設局長

北九州市と道路サポーターの連携

基調講演

北九州市建設局長の東義浩氏を迎え、「北九州市の魅力と北九州市道路サポーター制度」と題して基調講演を行っていただきました。

講演の中で、北九州市の歴史や山口県下関市との関門連携、地域と行政の協働体制の好事例で先導的な取り組みの「北九州市道路サポーター制度」についての説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

道守ふくおか会議代表世話人の吉武哲信氏（九州工業大学教授）をコーディネーターとして、2つのテーマで各県会議からの報告・意見交換をメイン会場とサテライト会場をつないで行いました。



意見交換会の様子（メイン会場）

テーマ①では「コロナ禍での道守活動」として、新型コロナウイルスにより対面で会話する機会が激減した中でも工夫と知恵を駆使しながら実施している活動事例についての報告がありました。

テーマ②では「行政との連携」として、行政と道守団体、地域の方々との連携のあり方や協力関係について、報告がありました。

大会宣言を経て、最後に次回開催地へ大会旗を受け渡し、交流会に幕を閉じました。



コーディネーターの道守ふくおか会議吉武代表世話人



大会旗の受け渡し



竹田市 土居昌弘市長の感想（竹田市サテライト会場）

本日、私たち道守九州会議は「みんなで手をつなごう」連携の道守活動」を目指し、意見交換しました。

先進的な北九州市道路サポート制度を現地で学び、行政との連携のみならず、世代を超えて道守同士、企業市民である企業などとの連携、日本風景街道や道の駅の皆さんと手をつなぎ、連携した活動を進めること、それが道守活動を一層、充実させ、広げてゆくことを学び、明日の地域づくりにつながると確信しました。我々は、コロナ禍も知恵と工夫で乗り越え、道守活動を展開しました。「連携の道守活動」は、未来につながります。

さあ、手をつないで、前へ進みましょう

みちづくし in 北九州 2021 大会実行委員長 玉川孝道



花植体験後に写真撮影



ライオンアップされた小倉城



関門トンネル排水設備（関門周回コース）



北九州エリアを説明するパンフレット全3編を配布（九州地域づくり協会作成）

交流会後、小倉市街地から紫川周辺の観光スポット等を巡る散策を北九州市が企画していただきました。紫川に架かる「火の橋」では点火イベントもあり、あいにくの雨でしたが、約60名の参加者は減多に見ることのない機会を楽しみました。

2日目の現地体験学習は寒空のもと、62名が参加。まず、北九州市ボランティアガイドの案内で門司港レトロ地区の名所を通った後、北九州市道路サポートの会の「NPO法人門司港レトロ花の会」団体が活動されている場所を見学し花植の体験。

その後、「関門周回コース」と「門司港レトロ満喫コース」に分かれました。

九州道路メンテナンスセンターを設置しました

戦略的・効率的なメンテナンスを推進

国土交通省
九州地方整備局

令和4年4月1日、急速に老朽化する社会資本の対策を強化するため、より戦略的・効率的なメンテナンスを推進するための組織として、九州地方整備局に新たに「九州道路メンテナンスセンター」を設置しました。

国民生活や社会活動、経済を支える道路や橋などのインフラは常に安全かつ持続可能でなければなりません。

そのためには、老朽化が進行している橋梁など道路インフラをいかに効率的、効果的にメンテナンスしていくかが、重要な課題と認識しているところです。

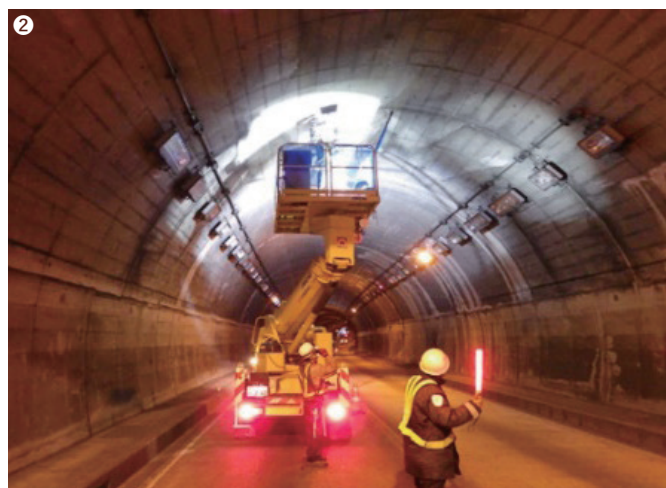
平成25年に法定化された5年サイクルの点検も2巡目に入り、国、地方公共団体問わず建設経過年数が長くなるほど、修繕な

どの措置が必要な施設が多くなる傾向が分かってきております。中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストを縮減していくためには、インフラの長寿命化を図り、大規模な修繕や更新をできるだけ回避することが重要であります。損傷が軽微である早期段階における予防的な措置の実施などが十分でない状況にあります。

「九州道路メンテナンスセンター」については、これらの状況を改善すべく、デジタル技術など最新技術やこれまでの知見や経験など活かし、より戦略的、効率的なメンテナンスの提案、地方公共団体への的確な助言や支援ができる専門性の高い組織を目指して取り組んで参ります。



開所式 R 4. 4. 1 3





国土交通省道路関連の民間団体である道守・道の駅・日本風景街道の3者が集まり、2016年から「3つの輪シンポジウム」を積み重ねてきました



が、語り合うだけではなく、ついに活動を実現しました。活動の舞台となった九州横断の道「やまなみハイウェイ」は、開通からまもなく60年を迎える観光道路です。道守活動を通じて顔見知りだった大分県・熊本県の道守仲間と、それぞれの「やまなみハイウェイ」愛を語るにつれ、「何か一緒に出来ないか」と話が盛り上がり、県を跨ぐ美化活動を一緒に

やまなみハイウェイ



景色のよい場所、いい汗をかき、美化に貢献できた心地良さを、美味しさも倍増！大成功の美化活動になりました。行政区域を超えた連携ができたのも、長年の道守活動や、みちづくしで培った仲間づくりの賜物です。顔の見える道守活動がこれからも末永く続きますように。

(道守大分会議事務局 木ノ下結理)



大分川的美観を守る道守さん

ばと思います。(道守大分会議事務局 木ノ下結理)

そこで、私たちはもうひとつの風物である「大分国際車いすマラソン」のコース沿いとなる大分川周辺を綺麗にし、選手や応援団を気持ちよくおもてなししよう！と清掃活動を企画しました。一昨年よりは、ゴミの量は少なかったですが、たばこの吸い殻、缶、プラスチックゴミが目につきました。パラリンピックも終わり、多様性を尊重する世界がますます広がってきました。道守活動を通じて国際的なスポーツを「おもてなし」の心でお迎えし、道に限らず、川や海のプラスチックゴミや環境問題への関心を持ち、個々の意識がさらに高まるように続けていければと思います。(道守大分会議事務局 木ノ下結理)

世界大会をおもてなしの心で！
国際車いすマラソン《前日》一斉清掃

道守大分会議(大分市)

大分



大分 地域からの報告 道守大分会議

開通60年へ 繋がり広がった 新たな道守の輪

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。



急流をひとまたぎする黒之瀬戸大橋



フラワーロードは格好のドライブコース

わたしの好きな道

潮風薫る道、未来へ夢膨らむ

～国道389号～

カーブを抜けると一面コバルトブルーの海と美しい山並みを背景にした三径間連続トラスの黒之瀬戸大橋が視界に広がる。やっと帰着いた！安堵感に浸る瞬間だ。

私の住む長島町は、鹿児島県の最北端に位置し、一部が雲仙天草国立公園に指定され、大小23もの島々からなる自然豊かな地域である。長島町本土と阿久根市の間には黒之瀬戸海峡があり、昭和49年に黒之瀬戸大橋が開通するまでは、フェリーで行き来していた。この海峡は「二に玄界、二に鳴門、三に薩摩の黒之瀬戸」と言われるほど急潮である。502mの黒之瀬戸大橋を渡り、国道389号線を北上すると、沿道にきれいな花が咲き誇り、石積みで整備された花壇が目をつく。これは、「石積みと花」をテーマに、「ぐるっと一周フラワーロード」の事業を展開したところ。行政により石積み花壇が設置され、ボランティア団体や各事業所等により管理されている。私が勤務する長島町商工会でも三カ所の花壇作業を行っている。各管理団体には「ふるさと景観サポーター」と称した立看板が渡され、みな看板に恥じぬよう草取りに余念がない。花だけではなく看板を見るのもお勧めだ。このことが功を奏し、景観に対する町民の意識が強まり、一年中美しい花が咲き誇っている。「薩摩よりみち風景街道」に登録されているこのルートは、格好のドライブコースとしても人気で、週末はツーリング客で賑わう。雄大な景色に気分よく車を走らせると、県境の蔵之元港にたどり着く。熊本県天草市牛深港とはフェリーで30分。天気がいい日はすぐ近くに美しい曲線美を誇る牛深ハイヤ大橋が見える。

鹿児島県、熊本県、長崎県が橋で繋がるといふ壮大な構想がある。九州西海岸地域が一体化し、関連する産業の振興が期待される。なんと夢のある構想だろうか。一歩ずつでも前進し早期に実現して欲しい。

わたしの好きな道、国道389号、美しい道なりを維持するため、微力ながら草取りに精を出そう。

プロフィール

福山 朗子 (ふくやま・あきこ)

鹿児島県長島町商工会経営支援員



福岡



APTF北九州支部真鶴会（北九州市）

清掃活動を通して、環境美化の意識を若い世代に根付かせていきたい！

APTF真鶴会は、複数の家庭が集まって活動する団体で、活動日には12、13の家庭が集まります。小学生から大人までの幅広い世代、総勢20、30名で清掃活動を行っており、毎月第3日曜日には足立山森林公園にあるメモリアルクロスの周辺で活動を行っています。足立山森林公園は、森林浴やウォーキング、ジョギングなど多くの人に利用されています。しかし、清掃を始めた当時は遊歩道にもごみが多かったことから清掃活動を始めました。メモリアルクロス周辺の清掃を続けて15年、以前に比べて遊歩道のごみは減り、環境に対する市民の意識も変化してきました。「いつもきれいにして頂いてありがとうございます」とウォーキングしている人から声をかけられることも多く、メンバーの励みになっています。

1951年、小倉北区小文字山中腹に誕生したメモリアルクロス。2021年はメモリアルクロス70周年であり、70周年の記念慰霊祭を計画していましたが、残念ながらコロナ禍で中止となってしまいました。しかし、家庭で参加するAPTF北九州支部真鶴会の清掃活動は、これからも歩みを止めることなく続きます。

（代表 高田恵治）



足立山森林公園での清掃活動



遊歩道での清掃活動

佐賀



嘉瀬まちづくり協議会 環境部会（佐賀市）

気球と空と花のあるまちづくり

昭和五十一年の秋から毎年嘉瀬川河川敷で開会されている熱気球大会の観客への「おもてなし」を目的に「気球と空と花のあるまちづくり」を目指して発足した「フラワールード作戦実行委員会」を平成二十七年から嘉瀬まちづくり協議会・環境部会が引き継ぎ活動を開始しました。春・夏・秋・冬花のある「フラワールード」を目標に環境部会員と老人クラブ会員が毎月第二水曜日に除草作業等を各町区輪番で実施しています。又、春・秋に花植えや青藍記念苑の除草・花植え作業、十一月は子どもクラブとチューリップの球根植込み、更にフラワールード北側に嘉瀬小学校の平成二十五年・二十六年卒業生と共に整備した卒業記念樹の桜五十本を除草・害虫消毒等の手入れを実施しています。

春に満開になった桜を観るのが楽しみです。尚、今後もフラワールードの環境整備を実現し美化に勤めたいと思っています。（部会長 北川英俊）



きれいに植えた花壇の前で記念写真



コロナ前は、嘉瀬小学校の子供たちと一緒に花植えをしていました

熊本



おもやい熊本（熊本市）

思いやりの精神で地域再生へ

わたしたちは、熊本市の南部地域で活動している団体です。「おもやい」をテーマに地域の道路清掃や花壇づくりなどを行っています。団体の構成メンバーは、年齢も様々ですが、高齢者助け合いボランティアを行っている人が中心です。

「おもやい」は、熊本の方言で、おもいやりを意味しています。困りごとの助け合いを含め、地域でのおもやい活動は、子供からお年寄りまで幅広く展開されています。以前、熊本県南部で発生した公害の原点といわれている水俣病。この公害病は、地域での対立を生みました。そんな地域の再生を成し遂げたのが「おもやい」の精神でした。そんな意味をこめて、私たちは、道守活動を通して、地域の再生を成し遂げたいと思っています。（道守くまもと会議 事務局 中村幸子）



好きなときに、好きな仲間と自由にボランティアがモットーです。その都度、集う仲間も自由です！



長崎



大村マイツリー会（大村市）

美しい景観と道を愛する心

大村マイツリー会は、大村市拡張事業によって美しくなった国道34号を大村市のシンボルとして、いつまでも美しい景観を保持するため、市民の道路愛護の心を醸成し、市民参加による道路の美化活動を行うものです。

平成21年のマイツリーイベントを契機に発足し、現在は沿道商店や大村市役所、長崎河川国道事務所のご協力により継続して清掃活動を実施しています。

今年も雨や新型コロナウイルス感染拡大防止のためなかなか実施できず、12月11日の活動が久しぶりの清掃活動となり、参加者の方からは「前回から期間が空いたので結構ゴミが多かった」等の感想が聞かれ定期的に継続する大切さを感じました。

今後もこの「大村マイツリー会」の清掃活動を通じて地域へ貢献をしていくために、沿道商店や自治体、道路管理者との連携を大切にして、継続的に取り組んでいきたいと思っています。（代表 小川稔）



宮崎



ひかり児童クラブ（延岡市）

大人が捨てても子どもが拾う
小さな継続が大人に伝わり大きな力に

子どもボランティア育成支援事業の一環としてこの活動を始めて二十年が過ぎました。

自分たちの住んでいる町をきれいにしようと、毎月一回クリーン作戦としてゴミ拾い・ポスター作り・看板作り・ガードレールの掃除など地域の方や高齢者クラブ、保護者の協力をいただきながら行ってきました。「大人が捨てて、子供が拾うちゃんね」 毎月のゴミ拾いの中での子どものつぶやきです。

「こんな大人にはならないでね」と話しましたが大人として恥ずかしくなりました。この活動を始めたころに比べると随分ゴミも少なくなっていますが、まだまだ、見えないところには沢山のゴミが捨てられています。

この二十年の間に多くの方から「いつもありがとうございます」と声をかけていただきました。そのたびに、子供たちもまた頑張ろうという気持ちになっていきます。年々、児童数が減少していますが、これからも続けていきたいと思っています。（猪股初美）



下阿蘇海岸のゴミ拾い。波で寄せられたゴミが砂浜にかたまり砂に隠れている状態でした



ガードレールの拭き掃除。汚れがなかなか落ちず力を入れて一時間ほど作業してきれいになりました



ゴミ拾いの様子

鹿児島



福地建設株式会社（霧島市）

地域の皆様が住みやすく、
気持ちよく利用できる環境づくりを！

福地建設（株）は霧島市に本社を置く、公共工事主体の総合建設会社です。本社のある霧島市牧園町は、霧島錦江湾国立公園に指定される場所でもあり、弊社も福地建設ボランティア会として地域の景観及び環境維持の取組や除草作業・美化活動に積極的に取り組んでいます。

活動としては、平成22年度より鹿児島県サポーター推進事業、「みんなの港・みんなの水辺・ふるさとの道・ふるさと砂防」に加入し、定期的に各地で草刈りや清掃美化活動を積極的に実施しています。

平成25年度からは近隣地区小学校の除草作業にも毎年参加し、小学校からは、「草刈り、ボランティア作業、本場にありがとうございました。おかげさまで、ピッカピカの小学校になりました。心からお礼申し上げます。」と感謝の言葉も頂きました。

これからも、社会貢献として、地域の皆様が住みやすい街づくりを、小学校では子供たちが気持ちよく利用できる環境を心がけ、道守活動を行っていききたいと思っています。（工務課 園田佳奈）



国道223号での清掃作業の様子



清掃後「ふるさとの道サポーター」の看板前の写真



国道223号での清掃作業の様子

日南海岸きらめきライン 重機を導入して安全に暖竹を伐採



重機による暖竹伐採



飛散防止ネットの設置

美しい海岸線の風景を創出するためには沿道の景観を阻害する暖竹伐採は重要です。しかし、崖つぶちでの足場の悪い作業は、危険を伴う作業です。また、作業に時間を要するためにボランティアも多数確保する必要があります。

そこで、新型コロナウイルス感染防止と崖つぶちでの作業の危険回避を目的に、少ない人数で且つ安全な作業実現に向けて、実験的に重機を導入しました。通常、重機を導入するには片側交互通行規制をかけなければなりません。小内海の土砂災害復旧工事の通行止めにより、交通量が激減しているため、重機を活用しやすい状況でした。今後、東九州自動車道の開通やトンネル区間開通により現道の通過交通が減少し交通量が大幅に減少します。片側交互通行規制も容易になることを見越して、重機を用いた暖竹伐採を試行的に実施しました。今回の実験により、少ない人員で安全・効率的に作業が可能となったことで伐採回数増加も期待できることが確認できました。今後も美しい沿道景観の創出を推進していきます。(日南海岸シーニックバイウェイ推進協議会 事務局長 谷越衣久子)

北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう” 2021北九州風景街道フォト&スケッチコンテスト



イベントPRを兼ねた過去入賞作品展の様子



作品応募チラシ

北九州風景街道(長崎街道)推進協議会主催で、令和3年10月1日〜令和4年1月31日に、「2021北九州風景街道フォト&スケッチコンテスト」を開催しました。

北九州風景街道(長崎街道等(大里、木屋瀬)や大里、門司港レトロまでの道路沿線を対象に、募集テーマを「あなたに伝えたい北九州風景街道“ゆっくりかいどう”」としました。応募部門には、「フォト部門」「スケッチ部門」「インスタグラム部門」があります。

応募された作品は、北九州風景街道(長崎街道)推進協議会にて審査を行い、入賞者を選出し、商品や贈呈しました。また、開催期間中には、市内7区において、イベントPRを兼ねた過去入賞作品展を行いました。(事務局)

ちょっとよりみち 唐津街道むなかた オリジナルパッケージのお菓子&周遊マップ



「オリジナルパッケージのお菓子」や「宗像周遊マップ」



イラストや紹介文を掲載した「オリジナルパッケージのお菓子」を作成しました。また、市内の観光施設等を巡る「宗像周遊マップ」を増刷して、地域コミュニティや企業、観光施設等の連携団体9団体の窓口を設置していただき、唐津街道「赤問宿」や「原町」の周知を行いました。

また、本市の東部観光拠点施設である「赤馬館」の周年イベント等では、「オリジナルパッケージのお菓子」や「宗像周遊マップ」を配布しました。その際に、唐津街道の概要を説明したり、市内観光施設のイベント情報等を案内したりすることで、唐津街道「赤問宿」「原町」の周知を行うとともに、唐津街道と観光施設等と連携し、集客力を高めることで、地域活性化につながればと思っています。(事務局)



ながさきサンセットロード 橋でつながる教会と歴史の道

2ルート合同で
一斉清掃

島原半島うみやま街道 歴史と水と温泉と



「11月26日」は、本ルートの日本風景街道登録日のため、「ながさきサンセットロードの日」として制定しています。毎年その日は、ルート内の横の繋がりを深めるとともに、ルートの更なる知名度向上を図るために、ルート内の一斉清掃を行っています。この活動には、パートナーシップ構成団体全員に加えて、一般参加者と一緒に取り組んでいます。

また、今年度は「島原半島うみやま街道」と同時に清掃活動を開催しました。他ルート同士の認識を深めるとともに、規模拡大による一層のPR効果が得られ、「日本風景街道」の認知度向上にもつながっていると思います。(事務局)

「島原半島うみやま街道」歴史と水と温泉のまち」は、島原半島全域を活動エリアとしており、パートナーシップ構成団体や地域資源が広範囲に点在しています。普段はパートナーシップ構成団体各々が活動していますが、全員が同時に参加できるイベントとして、島原半島全域を対象とした一斉清掃を毎年開催しています。幹線道路や観光施設を中心に清掃活動を行うことで、島原半島を訪れる観光客に気持ちよく観光や体感をしてもらいたいと思っています。

今年度の「ながさきサンセットロード」との2ルート同時での一斉清掃により、PR効果を高め「日本風景街道」の認知度向上を図ることができました。(事務局)

九州風景街道「やまなみハイウェイ」 熊本県と大分県をまたいで20キロ美化奉仕



令和3年6月に「やまなみハイウェイ」を大分県、熊本県で「つなげよう・広げよう」そんな気持ちの有志が集まり、共同活動と情報発信をしていくことを約束した。

第1弾として両県をまたいでのやまなみハイウェイ20キロ美化運動を10月27日実施した。

大分河川事務所・熊本河川事務所に係町の九重町（大分県）・南小国町（熊本県）も支援応援いただいた。久住自然を守る会（九重町）や自然を愛する会（熊本市）の登山愛好家の参加をいただき96名が参加した。今回は20キロを設



定、約1キロごとに4名を配置して道両側のゴミ拾いを実施する。マイクロボス3台使って参加者の移動や回収など約2時間以内で120キロのゴミを回収した。空き缶やペットボトルに大きなものはトイレやタイヤ・カーペットなどもあり今後続けていくことを確認した。

今回は特別ゲストに田中陽希さん（日本300名山を1200日かけて人力で歩いた男）の講演をいただき「歩く道」について話していただいた。参加者が多かったのは田中陽希さん講演の力が大きかったこともあるがボランティアとしての実践活動に多くの方が参加いただいたこと、風景街道「やまなみハイウェイ」の1本の道を通して環境問題について一歩前進したことが大きい。

風景街道で道守や道の駅との連携ができた。これからも共同活動と情報発信していきたい。

大分県 木ノ下結理（道守大分会議）
熊本県 阿南 誠志
（風景街道阿蘇くまもと路世話人）



九州横断の道 やまなみハイウェイ やまなみハイウェイモニターツアー



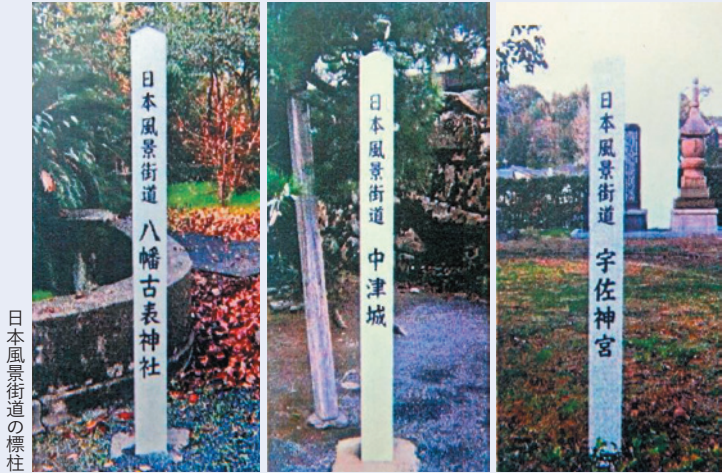
留学生モニターツアー実施
県外参加者モニターツアー実施

やまなみハイウェイ沿線の自然景観の魅力を国内外にSNS（ユーチューブ・フェイスブック・インスタグラム等）で発信することで、アフターコロナにおける集客拡大・地域活性化に寄与することを目的にモニターツアーを開催しました。

モニターツアーは国際留学生や県外の方を対象としたファミツアーとして、令和3年11月7日と令和3年12月13、14日に実施しました。ツアー参加者は11月が10カ国・20名、12月は県外から20名の方が参加してくださいました。

また、やまなみハイウェイ沿線の環境景観保全に継続して取り組める方策として、九州横断の道構想を提唱した油屋熊八を紹介するやまなみポストカードを制作して販売を行い、その売り上げの一部を環境景観保全活動費として活用できる取り組みも展開しています。（九州横断の道やまなみハイウェイ協議会 事務局長 平野芳弘）

豊の国歴史ロマン街道—小倉・足立山から宇佐の森へ— 日本風景街道の標柱設置期間の延伸



日本風景街道の標柱

平成21年度に協議会が発足して以来、「豊の国歴史ロマン街道—小倉・足立山から宇佐の森へ—」の歴史・文化資源を、地域社会・来訪者に知らせ、郷土教育や施設保存・地域振興に役立つ事を目指し、風景街道標柱を設置してきました。

令和3年度に、14基ある標柱のうち、平成23年度に設置した5基が期限である10年を迎えることになりましたが、建造物管理者と標柱設置地元理事の努力のもと、令和3年5月に、10年延伸の覚書きを調印することができました。

（豊の国風景街道推進協議会 会長 北村速雄）

薩摩よりみち風景街道 「人でつながるシーニックバイウェイプロジェクト」オンラインセミナー



オンラインセミナー実施状況

北海道の阿寒横断道路の建設に尽力した方に、鹿児島県日置市出身の「永山在兼」という人物がいます。この繋がりが、シーニックバイウェイ北海道と連携し、永山在兼に焦点をあてた「人でつながるシーニックバイウェイプロジェクト」のオンラインセミナーを令和3年6月9日14時〜16時に実施しました。定員を80名、参加費無料としました。主催は「一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター」、共催は「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」、「薩摩よりみち風景街道協議会」です。

これまでも姉妹都市盟約を締結している北海道弟子屈町とは、歴史的な出来事や偉人を通じた相互交流事業が行われていましたが、「薩摩よりみち風景街道」の活動と合わせて情報発信することができました。今回のオンラインセミナーにより、多くの人と繋がり、活動の輪が広がったと実感しています。（事務局）

道守たちのトピックス

■ 道守団体、次々と大臣表彰を受賞！

道守九州会議が発足して18年、各地の道守さん達の活動が認められ、国土交通大臣表彰をたくさんの団体が受賞されるようになりました。活動を継続されてきたことが、受賞に繋がったことと思います。今後はこの受賞を励みにますます活動を充実されることでしょう！ 今回受賞された団体は次のとおりです。

▶「道路ふれあい月間」における 道路愛護団体として表彰

①道守大川ネットワーク（大川市）

市民と行政が協働して道守活動を推進し、活動の定着化が図られ、精力的に活動中。



②川原町老人クラブ（うきは市）

うきは市浮羽町のR210の歩道清掃作業を実施し、道路環境づくりを進め、道守うきはの活動にも参加。



③顕徳町老人会デウスクラブ（大分市）

長年の続いてきた諸先輩方の想いを引き継ぎ、会員の「街をキレイにしたい！」という努力と行動で続け、地域の方から感謝の言葉をいただけることが励みになっており、次の世代にも、バトンを渡せるように引き続き頑張ります。



④2015北九州市道路サポーターの会（北九州市）

平成17年に道路の清掃美化活動を支援する「北九州市道路サポーター制度」が創設されて17年、現在の登録団体は226団体。北九州市内各地で心豊かなまちを目指し、活動を続けています。今回の受賞を励みにこれからも末永く北九州市の環境美化に頑張ります。



⑤名島校区花の架け橋実行委員会（福岡市）

名島校区花の架け橋実行委員会は、平成15年に発足し、名島橋及び国道3号沿線の清掃活動を毎月実施してきました。このたび大臣表彰をいただいたことでさらに会員の励みになりました。今後も継続した取り組みを実施したいと思います。



▶ 第32回「みどりの愛護」功労者表彰

花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間団体に対し、その功績をたたえ、国民運動としての緑化推進活動の模範として表彰。

○特定非営利活動法人はかた夢松原の会（福岡市）

「水と緑とまちづくり」をテーマに松の植樹や花植えを始め、35年。地域住民や企業と共に活動を継続し、今回の受賞で参加者一同励みになります。



◎この表彰を以前受賞された団体は次の通りです。

- 平成28年 門司港レトロ花の会（北九州市）
- 名島校区花の架け橋実行委員会（福岡市）
- 平成29年 顕徳町老人会デウスクラブ（大分市）
- 平成30年 多久市そうじの会（多久市）
- 令和2年 宮崎空港線修景美化推進協議会（宮崎市）

道守 人物伝

人は花を育て、花は人を育てる 「花の力」に感謝！

特定非営利活動法人 はかた夢松原の会 理事長 礒谷 慶子さん

はかた夢松原の会は、人工海浜に松原復元するために、浜辺に「愛を植えましよう」と植樹活動をはじめ、「水と緑とまちづくり」をモットーに35年間、様々な活動に取り組んできた。

2003年、福岡市が「放置自転車全国ワースト1」となり、この汚名を返上するため、人と自然が関わりを持てる道にしたいと「快適な都市空間づくり」を目指し、景観や緑の実態調査を実施し、実践活動として10年前から「国体道路花いっぱい運動」を開始し、情熱を注ぐこととなった。

西日本一の大都市、アジアに開かれたまち「福岡市」は、来街者が増加する中、福岡市の顔である天神地区は、放置自転車やゴミで溢れ、歩道環境は最悪であった。

そこで、花でのおもてなしと福岡の季節や街並みのすばらしさを感じて欲しいと、春吉橋から警固四角まで年2回の花植を始めた。植栽帯のデザインと植込みは西日本短期大学の学生、プランター植込みと手入れは女性団体や地域住民、子どもたち、日頃の散水は沿道店舗やビル・マンション管理人の方達とそれぞれに役割を分担してもらった。

その結果、放置自転車やゴミはなくなり、歩道環境は快適に変身し、地域住民や歩行者から感謝の言葉をいただくようになった。また、福岡市の「一人一花運動」の一環としてプランターの提供もあり達成感と活動の充実を実感している。

花はおもてなし、子どもの情操教育、コミュニティ形成、絆づくりなど効果があるといわれているが、人は花を育て、花は人を育てることを実感するこの頃である。

2020年、2021年とコロナに開け暮れたものの、花はいつもと同じように咲き続けている。私たちが植えた花は、道行く人々を「花の力」で癒そうと咲き誇っている。



横顔

◎道路部長 安部 勝也氏



安部勝也道路部長は、本年4月より和歌山県県土整備部長から就任。宮崎県小林市出身。「道守は宝だと思っています。皆様の活動が地域をより良くし、交流や連携が深まることで課題解決や成功事例が共有され、更に良くなる好循環を生み出しています。引き続き力を入れていきたいと思っています。」

◎道路管理課長 長友 浩信氏



長友浩信道路管理課長は、本年4月より久留米市都市建設部長から就任。福岡県出身。「道守の皆様への活動には心より感謝を申し上げます。道守活動により各地域がますます魅力的になることと確信しております。今後とも皆様と協働・連携して参りますのでよろしくお願いします。」

道守通信 編集後記

◎春爛漫、色とりどりの花と緑鮮やかな若葉に心を癒やされ、うきうきと弾みたくなる季節ですが、新型コロナウイルス感染症の影響でお花見にも出掛けられず、何となく寂しい春になっています。

道守活動にも制限がかかっているもののお花の手入れは欠かせません。早く収束して欲しいと願っています。

◎今回の道守たちのトピックスは、国土交通大臣表彰を受賞された団体を紹介しました。九州各地の道守さんたちが多数受賞され、とても嬉しい限りです。二つの分野で受賞された団体もあり、継続することで地域に貢献されている証と確信しました。

これからも多くの道守さんたちが受賞されることでしよう。道守、若手の会が設立されました。構成メンバーは、40才未満の道守さんと事務所職員で、活動方針や内容について、3ページに紹介しています。自薦他薦どちらも大歓迎ですので、是非ご参加をお待ちしています。

◎昨年、北九州市で開催された「みちづくしin北九州2021」は本会場はじめサテライト、YouTube視聴者など総勢424名の参加で実施できました。今年は、九州会議主催で「みちづくしin阿蘇2022」を10月28日と29日に阿蘇市で開催します。久しぶりに一堂に会し、大いに語り合いたいと思います。たくさんの道守さんたちと交流できることを楽しみにしています。

～道守通信 vol.42 春号へ協賛いただいた皆様(団体・企業)～

※順不同

(株)安部組	九建設計(株)	九州建設コンサルタント(株)
(株)日建コンサルタント	(株)野村建設	(株)富士設計
明大工業(株)		

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県道路利用研究会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	西日本高速道路(株)九州支社
日新興業(株)	福岡北九州高速道路公社	九州技術支援協議会
(株)九州建設マネジメントセンター	(株)熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州(株)
西日本高速道路メンテナンス九州(株)	阪神高速技術(株)	サンコーコンサルタント(株) 九州支社
朝日開発コンサルタンツ(株)	旭建設(株)	朝日工業(株)
朝日テクノ(株)	(株)アジア技術コンサルタンツ	(株)アップス
(株)安部日鋼工業 九州支店	(株)安藤・間 九州支店	いであ(株) 九州支店
鳥城塗装工業(株)	(株)エイト日本技術開発 九州支社	(株)エスイー 九州支店
NTT インフラネット(株) 福岡支店	NTT インフラネット(株) 熊本支店	NTT インフラネット(株) 鹿児島支店
(有)エンジニアプランニング	扇精光コンサルタンツ(株)	大分瓦斯(株)
大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会	大分交通(株)
(株)大島造船所 九州営業所	(株)岡崎組 勝盛会	(株)荻島組
(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	(株)ガイアート 九州支社	鹿児島土木設計(株)
(株)片平新日本技研 福岡支店	上内電気(株)	川田建設(株) 九州支店
(株)カンドー 九州支店	九建設計(株)	(株)九州開発エンジニアリング
九州環境管理(株)	九州建設コンサルタント(株)	九州地区道路利用研究会
九州みちの会	協同エンジニアリング(株)	(株)橋梁コンサルタント 西日本支社
(一財)橋梁調査会	(株)建設環境研究所 九州支社	(株)建設技術研究所 九州支社
(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部
(株)鴻池組 九州支店	コアツ工業(株)	(株)国土開発コンサルタント
(株)コバルト技建	(株)駒井ハルテック 九州営業所	(株)西海建設
西部ガス(株)	(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	(株)サタコンサルタンツ
(株)ジャストエンジニアリング	昭和コンクリート工業(株) 九州支店	新成建設(株)
(株)新日本技術コンサルタント	(株)親和コンサルタント	(株)末宗組
(株)西部技建コンサルタント	(株)センコー企画	(株)総合技術コンサルタント 九州支店
そうじの会(多久の未来を創る会)	(有)測量企画センター	(株)そよかぜ館(「道の駅大和」)
大日本コンサルタント(株) 九州支社	大福コンサルタント(株)	太陽技術コンサルタント(株)
(株)高山組	瀧上工業(株)	宅島建設(株)
谷川建設工業(株)	(株)玉の湯	(株)地域科学研究所
中央コンサルタンツ(株) 福岡支店	中央復建コンサルタンツ(株)	(株)長大 福岡支社
(株)長大テック 福岡支店	通信土木コンサルタント(株) 九州支店	(株)東亜コンサルタント
東急建設(株) 九州支店	(株)東京建設コンサルタント 九州支社	(株)東豊開発コンサルタント
東洋技術(株)	利光建設工業(株)	戸田建設(株) 九州支店
(株)友岡組	(株)友岡建設	(株)名村造船所 福岡営業所
南生建設(株)	(株)西九州道路	西日本技術開発(株)
西日本建技(株)	西日本コンサルタント(株)	西日本コトラクト(株)
(株)日建コンサルタント	日鉄鉦コンサルタント(株) 福岡支店	日本乾溜工業(株)
日本軌道工業(株)	日本工営(株) 福岡支店	(一財)日本造園修景協会 大分支部
日本地研(株)	(株)野村建設	葉隠会道守部会
(株)萩原技研	パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社	(株)ビーエス三菱
(株)日高本店	福地建設(株)	(株)福山コンサルタント
(株)富士設計	(株)富士ピー・エス	(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)
復建調査設計(株) 九州支社	前田建設工業(株) 九州支店	松尾建設(株)
松本技術コンサルタント(株)	(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント
(有)道の駅みえ	みちを考える会	宮崎空港ビル(株)
(株)宮崎産業開発	宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	村本建設(株) 九州支店
八千代エンジニアリング(株) 九州支店	(株)ヤマウ	(株)ヤマックス
(株)横河ブリッジ 福岡営業所	龍南建設(株)	(株)西田技術開発コンサルタント

個人会員66名

「道守九州会議」事務局

発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
令和4年5月発行

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michi-kima@kyugikyo.or.jp

